

生活の不安や心配を一緒に解決しませんか

くらしサポートセンター

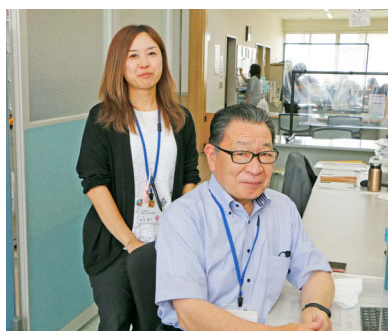
とうべつ・しんしのつ

生活困窮者の支援機関として開設

令和3年4月より、ゆとろ内に設置された「くらしサポートセンター とうべつ・しんしのつ」はご存知でしょうか？生活困窮者自立支援法に基づいて、北海道石狩振興局から当別町と新篠津村の社会福祉協議会が委託を受けて設置した、生活が苦しい方々を対象とした相談窓口です。相談支援員、家計支援員、就労支援員など兼務を含めて5名体制で運営しており、令和3年度は男性36名、女性31名の合計67名の相談を受けています。



ゆとろ玄関左側に事務所があります

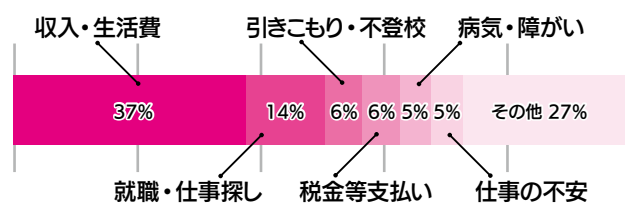


くらしサポートセンター
とうべつ・しんしのつ
支援員
菅原さん(右)
南谷さん(左)

どのような相談を受けているのですか

債務や滞納があり生活が苦しい、働きたいが仕事が見つからない、ひきこもりが続いているなど多岐にわたります。また、男女問わず様々な年代の方が相談にきています。

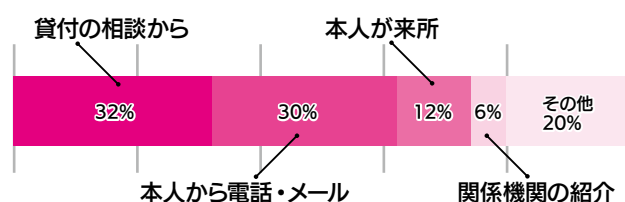
■令和3年度の相談内容



どのような経路で来所していますか

貸付の申請※1、行政からの紹介（生活保護取り下げからの繋ぎ）、民生委員からの情報提供、チラシや広報誌を見て来所、などがあげられます。

■令和3年度の相談経路



※1 社会福祉協議会が窓口の緊急小口資金の特例貸付

就労支援

コロナ禍によって離職してしまった方、仕事が見つからない方などに対して、ハローワーク札幌北と連携した就労支援を行っています。ハローワークに在籍する就職支援ナビゲーターが、ハローワークの利用方法の説明や、履歴書や職務経歴書の書き方の指導や添削、模擬面談の実施、就労先の斡旋などを個別に支援して、就労に繋げています。

令和3年度は9名の方がこの支援を利用して、6名が就職、うち2名は正社員として採用されました。

CASE

コロナ禍により勤務先の業績悪化に伴い離職。その後就職活動を続けるが仕事が決まらず、生活困窮に陥ったため相談を受ける。

就労先の決定を目標として、就職支援ナビゲーターと相談支援員による「就労支援チーム」を構成。継続的な職業相談を行い、本人との信頼関係の構築、履歴書と職務経歴書の添削、コミュニケーション能力の不足を補うための模擬面接を実施して、支援期間2ヵ月で正社員採用となった。

就職支援ナビゲーターは、マンツーマンで仕事探しをサポートします。通常の窓口業務では来所のたびに担当者が変わりますが、同じ担当者がサポートすることで、相談者と信頼関係を築くことを大事にしています。

相談者の人となりを知ることによって、その人に合った就職先を探し、求人内容に合わせて履歴書の書き方や面接の受け答えのアドバイスができます。この方法で50代60代の再就職が難しい世代の方々の求人もマッチングしています。

くらしサポートセンター相談支援員の皆さんと、得意な分野で役割を分担し、就職先の決定から就職後もサポートしますので、ぜひご相談ください。



ハローワーク札幌北
就職支援ナビゲーター
森さん

食糧支援

町内4カ所の郵便局や町内の農家・企業から食料を寄贈してもらい、生活困窮世帯、子ども食堂、障がい者支援施設などに提供しています。令和3年度は165件の食料支援を受けて、生活困窮世帯等に36回提供しています。



令和2年6月から、食品ロスになる食材を子ども食堂に届けるために、町内の郵便局を窓口地域の方々から食品を寄贈する取り組みを始めました（道内初！）。時期によっては食料が多く集まりすぎてさばききれない時もあり、くらしサポートセンターが間に入ってくださることで、必要としている方に食材を届けることができました。皆さんの食品の提供をお待ちしています！



左から弁華別郵便局・太美郵便局・当別郵便局・中小屋郵便局の局長の皆さん



↑回収ボックス未開封・保存がきくものを回収



ファームアグリコラ
水野さん

アグリコラの平飼いたまごの品質を保つためには、どうしても一定数出荷ができない卵ができてしまいます。問題なく食べることができる卵なので、子ども食堂や困っている人に届けられ、食品ロス対策につながるWin-Winの取り組みは、とても助かります。

家計支援

家計の管理ができず困窮に陥った方に、支援員が家計の「見える化」を行い、相談者が家計を管理できるように支援を行っています。現在2名の利用者がいて、支出の整理と不要な支払いの見直しを進めています。

CASE

自身で家計管理ができず、債務や滞納を繰り返し生活困窮となり相談。家計改善支援事業の申請を行い、支援員が1ヵ月ごとに家計管理表を作成して家計の「見える化」を行った。

その結果、債務整理による支出の減少、生活の維持ができるようになった。

ひきこもり支援

コミュニケーションが苦手・社会復帰が難しい方に、関係機関と連携し、就労の体験や対人の訓練ができる場を用意します。現在3名の利用者が、一般就労に向けて、一つずつステップを踏んでいます。

CASE

高校を中退し、数年間引きこもりの状態で相談を受ける。訪問を重ねることで信頼関係を構築し、対面にて会話ができる状態となった。

現在は目標を設定して、就労体験を行い、社会経験を積んでいくことで、一般就労へ繋げていく。

一步を踏み出して まずはご相談から

一人で悩みを抱え込まず相談を

誰かに悩みを打ち明けることは勇気が必要です。その一步を踏み出して相談いただくと、早い段階で支援に関わることができ、迅速に対応できます。悩みに対してどのように支援できるのか、分かりやすく制度を説明して、自立までのステップを示します。

一人一人に寄り添った支援

自立に向けて進んでいくためには、様々な機関に足を運び判断をする必要があります。支援員が関係機関まで同行して、一步を踏み出す後押しをします。

関係機関と連携した迅速な支援

守秘義務を遵守しつつ、関係機関と連携しながら支援します。連携を取ることで課題に向けて迅速に対応することができます。

地域のネットワークを活用した支援

町内で多様なネットワークがある社会福祉協議会の強みを生かし、地域内での結びつきや個人・団体からの協力を得ながら、幅広く支援します。

くらしサポートセンター とうべつ・しんしのつ

(受託者 当別町社会福祉協議会)

西町 32-2 総合保健福祉センターゆとろ内
電話 27-5011 (平日 8時45分～17時15分)
080-8914-4128

メール toshakyo.konkyu@galaxy.ocn.ne.jp

LINEでも
相談できます



紹介チラシは
こちらから

